様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　22 年　5 月　21 日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2006～2009
課題番号：18320015
研究課題名（和文）インドにおける宗教的空間の象徴性に関する学際的研究

研究課題名（英文）The interdisciplinary study of the symbolism of religious spaces in India

研究代表者
森　雅秀（MORI MASAHIDE）
金沢大学・人間科学系・教授
研究者番号：90230078

研究成果の概要（和文）：インドの宗教的空間に関する画像データを整理し、関連する文字情報を加えて統合的なデータベースを構築し、HP 上で公開した。データの集積をふまえ、インドの宗教的空間を構成する要素を 1. 概念的空間、2. 造形的空間、3. 建築的空間、4. 実践的空間、5. 歴史的空間という５つの観点から考察した。隣接分野の研究者の参加を得て、研究会を７回にわたって開催し、インドの宗教的空間の多様性と、そこにみられる共通性を学際的な視点から明らかにした。さらに、インドの宗教的空間の象徴性は、当時の政治的・社会的情勢との関係、さらに王権と宗教という問題があることが指摘された。

研究成果の概要（英文）：We constructed a synthetic database of visual and textual data concerning the religious spaces in India. This database is put on the web (http://air.w3. kanazawa-u.ac.jp). Based on the accumulated data, we analysed the every element included in the religious spaces in India through the following five viewpoints: 1. ideological space, 2. artistic space, 3. architectural space, 4. practical space, 5. historical space. We had workshops for seven times, which clarified the diversity of symbolic meaning of the religious spaces as well as the common characteristics among them, with the participants of several fields neighbouring the Indology and Buddhist studies. For the furthermore study, we recognized the necessity of the research on the relationship between religions and political, or social circumstances, especially the sovereignty.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2006 年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2007 年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2008 年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2009 年度	1,800,000	540,000	2,340,000
年度			
総　計	9,200,000	2,760,000	11,960,000

研究分野：インド学仏教学
科研費の分科・細目：哲学・印度哲学・仏教学
キーワード：空間論，象徴性，儀礼空間，聖地巡礼，寺院建築

１．研究開始当初の背景

宗教的な空間に関わる問題は、宗教学、歴史学、民俗学、コスモロジー、都市論、建築学、美術史などの多領域にまたがる複合的なテーマであり、さらに時間論や身体論などとも密接に関わる。宗教的空間とは具体的には、寺院や王宮などの建築物とその複合体である都市や共同体が、第一にあげられる。儀礼や祭礼の場も重要な宗教的な空間である。また、建築物をはじめとするこれらの空間には、しばしば絵画や彫刻などの造形作品が配されるが、これらも特定のプログラムにしたがうことで、宗教的な空間を形づくる。その一方で、絵画の中に見られる遠近法や画面構成にも、宗教的空間の象徴性を見いだすことが可能である。さらに、従来、空間論とは結びつけられることの少なかった巡礼のような宗教行為、あるいは他界観、来世などについても、空間表象として扱うことができる。寺院や聖地に結びついた民族主義や原理主義などの現代的問題も、宗教的空間という視点を導入することが必要である。

本研究のメンバーは、いずれもインドの宗教や文化の諸相について十分な研究の蓄積を持ち、しかも、何らかの形で空間に関わるこれらの問題を扱ってきたものたちである。本研究において、インドの宗教的空間について、具体的なデータを集積し、それにもとづいた学際的な研究を推進させることで、最終的には、従来にない新しい空間論を構築することを企図した。

２．研究の目的

本研究では、インドのさまざまな宗教的な空間が、どのような形態と象徴性をそなえ、それがインドの文化や思想にいかなる影響を与えたかを、学際的に考察する。伝統的なインド学仏教学においては、空間が主要な研究テーマとされることは、国内外を問わず、ほとんどなかった。しかし、インドに限らず、宗教一般において、空間がどのようにとらえられ、どのように表現されたかという問題は、その宗教を理解する上で、きわめて重要な意味を持つ。儀礼空間や聖地、巡礼などの問題も、空間の表象として理解することで、通文化的な問題となる。本研究では、このような多角的な視点にもとづき、学際的な空間研究を行うことで、インド学仏教学にとどまらず、宗教研究や文化史に関わる新しい領域を生み出すことをめざす。さらに、日本をはじめとするアジア諸国とインドの宗教的な空間が持つ象徴性についての比較研究を通じて、それぞれの文化の持つ独自性とともに、インドの諸宗教の持つ普遍性や多様性も明らかにすることをめざした。

３．研究の方法

(1)インドの宗教的な空間にかかわるあらゆるデータを収集し、統合的データベースを構築する。これらのデータは宗教的建築物、造形作品、儀礼、祭式、遺跡などの画像データ、建築、美術、儀礼などに関するサンスクリット等のテキストデータ、宗教的空間に関わる書籍、論文などの書誌学的データの３つの領域からなる。このうち、画像データに関しては新たに現地において収集を行い、データの拡充を図る。

(2)データの集積をふまえ、インドの宗教的空間を構成する要素を、各メンバーが考察する。その場合、①概念的空間、②造形的空間、③建築的空間、④実践的空間、⑤歴史的空間という５つの側面からのアプローチを行う。その上で「空間のもつ象徴性」という視点から、全体を総括する。

(3)以上の段階をふまえ、各研究者が対象とする宗教や時代、地域の宗教的空間が持つ象徴性について研究を進め、研究会において成果を報告し、メンバー全体で討議する。

４．研究成果

(1)インドの宗教的空間に関するデータを収集し、データベース化を進めた。とくに研究代表者がこれまで集積してきた画像データを整理し、関連する文字情報を加えて統合的なデータベースを構築し、HP 上で公開した（Asian Iconographic Resources, アドレスは http://air.w3.kanazawa-u.ac.jp/)。東京大学東洋文化研究所が所蔵する故小倉泰氏のスライドを整理し、東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所の協力を得て、デジタル化を行った。

(2)研究分担者と研究協力者の参加を得て、金沢大学文学部において、研究課題に関する研究会を通算で７回開催した。本研究ではインドの宗教的空間を①概念的空間、②造形的空間、③建築的空間、④実践的空間、⑤歴史的空間という５つのカテゴリーに分けて研究を進めた。研究会では研究代表者・研究分担者の他に、以下の研究者による発表が行われた。福田琢（アビダルマ仏教)、岡野潔（部派仏教)、鈴木隆泰（大乗仏教)、和田壽弘（ヴァイシェーシカ学派)、矢口直道（インド建築史)、永田郁（インド美術史)、福山泰子（仏教美術史)、井田克征（ヒンドゥー・タントリズム)、横地優子（インド文化史)、榊和良（イスラム教)、山下博司（ヒンドゥー教)、菊谷竜太（密教学)、松本郁代（日本史)、冨島義幸（日本建築史)。これらの研究会には美術史、密教、イスラム教などの他分野の多くの研究者の参加も得て、学際的な内容の活発な討論が繰り広げられた。

(3)これらの成果は研究代表者及び研究分担者の個々の論文・図書において、宗教的空間

のモデルとその個別例として公表されている。さらにそこでは、インドの宗教的空間のもつ多様性が、さまざまな文脈で示されている。
(4) 今後の課題として、本研究のテーマである宗教的空間の象徴性は、実践、美術作品、建築などのより具体的な分野で考察されるべきであり、その背景として宗教と当時の政治的・社会的情勢との密接な関係が想定されることが示された。それらを包摂するテーマとして、王権と宗教という問題があることが指摘され、その学際的な研究が必要であるという認識で一致した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 15 件）
1. 森雅秀「チベットの美術」『南アジア仏教史 9　チベット　須弥山の仏教世界』佼成出版社　2010 年，267-311，査読有

2. 永ノ尾信悟「儀礼と文化の変遷」『新アジア仏教史 1 （インド Ⅰ）』佼成出版社　2010 年，pp. 178-213，査読有

3. 高田良宏 ，笠原禎也，西澤滋人，森雅秀，内島秀樹「非文献コンテンツのための可視性と保守性に優れた学術情報リポジトリの構築」『情報知識学会誌』19-3(2009)：251-263，査読有

4. 引田弘道「大迦葉物語『ボーディサットヴァ・アヴァダーナ・カルパラター』第 63 章和訳」『人間文化』24(2009) 200-188，査読有

5. 森雅秀「『観仏三昧海経』「観馬王蔵品」における性と死」『北陸宗教文化』21(2008)，31-55，査読有

6. Mori, M. The *Vajrāvalī* mandala Series in Tibet. *Esoteric Buddhist Studies: Identity in Diversity, Proceedings of the International Conference on Esoteric Buddhist Studies, Koyasan University, 5 Sept.-8 Sept. 2006.* Koyasan: Executive Committee, ICEBS, 2008, 223-241，査読有

7. 森雅秀「初期パッラヴァ朝におけるヒンドゥー石窟の彫刻」『金沢大学文学部論集 行動科学・哲学編』28(2008) 173-205，査読有

8. 引田弘道「ナーガ童子物語/農耕夫の物語：『ボーディサットヴァ・アヴァダーナ・カルパラター』第 60・61 章和訳」『愛知学院大学論叢　文学部紀要』37(2008)：125-132，査読有

9. 引田弘道「ヤショーダ物語：『ボーディサットヴァ・アヴァダーナ・カルパラター』第 62 章和訳」『人間文化』23(2008) 121-140，査読有

10. 森雅秀「エローラ第 11 窟、第 12 窟の菩薩群像」『金沢大学文学部論集　行動科学・哲学編』27(2007) 99-134，査読有

11. 森雅秀「日本人はマンダラをどのように見てきたか」『点から線へ』50(2007) 78-102，査読有

12. 高島淳「Abhinavagupta 作 Tantrāloka 第 13 章　訳と註解 Jayaratha 注釈付(2)」『東洋文化研究紀要』151(2007) 97-145，査読有

13. 引田引道「クナーラ物語（その二)」『愛知学院大学人間文化研究所紀要　人間文化』22(2007) 173-190，査読有

14. 引田引道「初期パーンチャラートラ文献に見る親愛思想」『愛知学院大学文学部紀要』36(2007) 99-109，査読無

15. Einoo, S., Is the Diksa to be performed by the Priest? An Analysis of Vedic Texts. *Collection Purusartha* 25(2006) 79-82，査読有

〔学会発表〕（計 1 件）
1. Takashima, Jun, More on Santali Vowels, International Symposium on ‘Corpus Analysis and Diachronic Linguistics, 2010 年 3 月 2 日，東京外国語大学（東京都）

〔図書〕（計 6 件）
1. 森雅秀『仏教について教えてください』Asian Iconographic Resources Monograph Series, Vol. 1, 金沢大学，2010 年，1043 頁

2. Mori, M., *Vajrāvalī of Abhayākaragupta: Edition of Sanskrit and Tibetan Versions*, 2 vols. Buddhica Britannica Series Continua XI. Tring: The Institute of Buddhist Studies, 2009, 748pp.

3. Einoo, S. ed., *Genesis and Development of Tantrism*. Tokyo: Institute of Oriental Culture, Tokyo University, 2008, 562pp.

4. 森雅秀『マンダラ事典　100 のキーワード

で読み解く』春秋社，2008 年，226 頁

5. 森雅秀『生と死からはじめるマンダラ入門』法蔵館，2007 年，222 頁

6. 森雅秀『仏のイメージを読む　マンダラと浄土の仏たち』大法輪閣，2006 年，274 頁

〔その他〕
ホームページ等
http://air.w3.kanazawa-u.ac.jp/
http://wwwdb02.db.kanazawa-u.ac.jp/dspace/

６．研究組織
(1)研究代表者
森　雅秀（MORI　MASAHIDE）
金沢大学・人間科学系・教授
研究者番号：90230078

(2)研究分担者
永ノ尾　信悟（EINOO　SHINGO）
東京大学・東洋文化研究所・教授
研究者番号：40140959

高島　淳（TAKASHIMA　JUN）
東京外国語大学・アジアアフリカ言語文化研究所・教授
研究者番号：40202147

引田　弘道（HIKITA　HIROMICHI）
愛知学院大学・文学部・教授
研究者番号：00192287